

水から離れる

1. アカハライモリ

水場のない打吹山中では場違いのようですが、遊歩道で出会ったのです。10月26日でした。前日は雨、この日も雨が降ったり止んだりでした。最高気温が前日、前々日は18℃台、この日は23、5℃までいきました。寒さを感じる日もあるこの時期にイモリは冬支度です。右の写真の雄は急ぎ足で道を横断していたので、前肢がぶれて写りました。

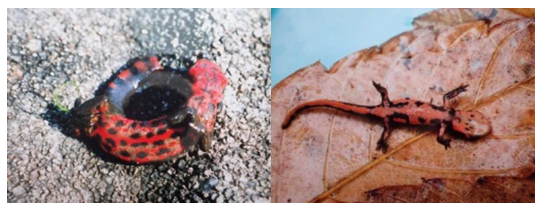


移動中の雄

4月には椿の平の池にいた個体と思われますが、池で夏を越し、この時期からは陸上の湿り気の多い落ち葉の下などで越冬するのです。5月、モリアオガエルが池に現れる頃に、まずイモリの雄が池にやってきます。6月には雌も来て繁殖の季節となります。小柄で尾の短い雄2～3匹が、尾の長い1匹の雌を追いかける様子や、モリアオガエルの卵や小さな幼生を食べる場面を目撃できます。



幼生が透けている卵

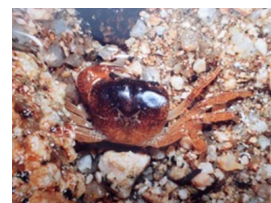


腹面の赤と黒の斑紋

カエルのように卵塊でなく、1個ずつ草の葉や落ち葉で包んで産卵するので、卵には気づけないでしょう。池では上から見ることになるので赤い腹面は見えませんが、斑紋は個体差があり個体識別が可能です。写真で記録しておけば、個体ごとの行動範囲を調べることもできるのではないのでしょうか。打吹公園の池と長谷寺の西参道の途中にある堂の所の水たまりが生息地で、強い流れのある場所には見られません。

2. サワガニ

サワガニは、春から夏にかけて、流れのある谷川の石の下や岸の石の下に穴を開けて隠れて生活します。そして、イモリのように秋には越冬のため上陸します。毎年、10月の雨の日や雨の直後に水から離れている場所を歩いている個体に遭遇します。小さな流れや湧水があれば生活ができるようで、打吹山の小さな谷川や博物館の池の近くでも見られます。



左の鉄の大きい雄

雑食性のため、生きていくことはたやすいと思われます。ミズなど動物の死体でも食べます。甲羅の中のエラで呼吸していますので、湿度が維持できればある程度陸上でも動き回ることができます。冬眠には湿った空間があればよいのです。

海岸近くの山林や家の床下など陸上で生活しているアカテガニは、産卵だけは海中で行い、淡水にいるモクズガニ(ズガニ)も海に降りて産卵します。海と関係ない生活をしているのはサワガニだけです。海に降りて産卵するカニの仲間は、孵化するとプランクトン(浮遊生物)の時期を経てカニの姿になり、陸や淡水に帰るのですが、サワガニは雌が腹に抱えた卵の中でカニの姿まで成長して生まれてきます。そこで雌は子どもが成長するために必要な栄養を含んだ大きな卵を少数抱えます。子ガニが腹にいるのを見た方も多いでしょう。子ガニは殻が薄く乾燥に弱いので水辺で越冬するのでしょうか。水を離れて歩いている個体は、みな甲幅2～3cmもある成熟したもののばかりです。



抱卵中の雌